

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年6月11日発行 No.72

『だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。』
(コリントの信徒への手紙Ⅱ 第4章16節)

<信頼の証として纏った白衣、その責任を覚えつつ…。小学部1年生の白衣推戴式を挙行!!>

先回の通信では、長期の臨床実習に出かけているリハビリテーション学部4年生の奨励を紹介しましたが、実はこの臨床実習は1年生から始まります。それに向けて先週月曜日には、リハビリテーション学部1年生をチャペルに迎えて白衣推戴(すいたい)式が行われました。これから派遣される臨床実習では、皆が神戸国際大学 St.Michael's KIU のマークが左腕に刻印された白衣を着用し、一人の治療者として患者さんの前に立つ事になります。奨励を担当された下村学長からも、「貴重な実習期間を通して、一人のプロフェッショナルとしての覚悟をぜひ学んでもらいたい」との言葉がありました。実際、この礼拝を通して出席した1年生一人ひとりの表情や姿勢が大きく変化したように感じました。皆さんの働きと学び、そして一つひとつの出会いの上に神様の豊かな祝福と導きがあるよう、心からお祈りしています!!



白衣を着た1年生でチャペルは満席 責任を自覚しつつ呼名に応える 下村学長「白衣こそ信頼の証です」

<チャペルで居眠りとは不謹慎!? いえいえ心を休める事こそチャペルの大切な役割です!!>

今年度が始まって約2ヶ月が過ぎましたが、最近チャペルで不思議な光景が見られるようになりました。特に礼拝や行事等が行われていない時に、数名の学生が休憩に来てくれるようになりました。私は、チャプレンとしてこのような形で学生がチャペルを心と体の拠り所としてくれている事に、大きな喜びと意義を感じます。情報機器の発達により、私たちの生活は確かに便利になりました。しかし、同時にそれらとは上手に付き合えないと、24時間休みなく駆け巡る情報に振り回される事になります。また学費や生活費を確保するため、深夜(明け方!?)までアルバイトをしている学生も多いと聞きます。神戸国際大学に来てくれた一人ひとりが学生生活を有意義に過ごすためにも、体を休め、また心を整える場所としてチャペルをぜひ愛用して欲しいと思います。あと、皆さんの見識を広め、人生を豊かにする昼の礼拝にも、ぜひ来て下さいね~(^o^)/” マツマ-311



心と体の充電中…

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

6月4日(月) テーマ:「大学生活を充実させるために」 下前 みちる(生涯教育センター)

4月から2ヶ月が過ぎ6月を迎えたがこの時期は疲れが溜まって来るし、梅雨が始まり湿気はすごいし、憂鬱だな…という思いの中で元気の出ないという人も多いと思う。そんな時、長年学生の姿を見て感じる大学生活をイキイキ過ごす方法を紹介したい。ポイントは3つある。1、周りに振り回されない…嫌な事ははっきり断わる。2、目標を持つ…自分の気持ちや性質をよく考える。3、誰かに喜ばれたいと思う…具体的に誰かの為に時間を割く。自分をしっかり持ち、行き先を模索しながら、喜んでもらえる生き方の中で自分の喜びを見出す。これらを心掛ける事で、皆さんの学生生活が充実したものとなるように、心からお祈りしています。

6月5日(火) テーマ:「土の塵と命の息」 野間 光顕(チャプレン)

先日、経済学部国際ビジネス・観光学科の白砂教授と話す機会があった。バラの専門家である白砂先生は、福島県でバラを使ったイベントを開き、復興を盛り上げたいと語っておられた。震災発生から7年以上が経ったが、目に見えない放射能の被害に恐れを抱えながらの生活を強いられている人々の存在、また私たちが経済を優先させる中で、人間だけでなく、土や海、自然や空気など「命」全体を汚している事を忘れてはならない。今日の日報に挟まれている日本聖公会が提唱する「地球環境を覚える祈り」を、皆で心を込めて共に唱えたい。

6月6日(水) テーマ:「脳梗塞に注意」 成瀬 進(リハビリテーション学部)

皆さんは「脳」の働きを考えた事があるだろうか?脳は「話す」「見る」「聞く」「感じる」「体を動かす」など、人間の行動の多くを司る大切な器官であるが、その働きを支えているのは血液だ。体全体の中で脳の割合はわずか2,5%しかないが、そこに全体の25%、約4割の血液が集まっており、脳梗塞等によって血液の循環が止まってしまうと、栄養や酸素が届けられなくなった細胞は死んでしまう。暑くなると、自然に汗の量が増え脱水症状になりやすくなる。血液も体内の水分の一部なので、結果的に脳梗塞に繋がる危険性がある。こまめな水分補給を心がけたい。また高血圧や動脈硬化など、血管内のごみを溜めないようにも注意したい。

6月7日(木) テーマ:「頑張ること」 後藤 誠(リハビリテーション学部)

教員をしながら、様々な悩みを抱える多くの学生と面談をしてきた。そこでよく耳にするのが「頑張ります」という言葉だ。調べてみると「頑張る」の語源は、「我を張る=自分を押し通す」で、あまり良くない意味で使われていたそうだ。では「頑張る」の反対は何だろうか?「怠ける」や「サボる」ではなく、意外にも「感謝」だという。「感謝」とは、目の前の物事を在りのままに受け止め、そこまでやった自分を認めてあげる事だ。感謝を忘れて周り無関心になるのではなく、考え方や見方を変えてみると、新しい道が見えてくるのではないだろうか?

6月8日(金) テーマ:「大学生活を有意義に」 宮本 善弘(学院事務局)

今から約50年前、私は大学を卒業しすぐに神戸学院大学に勤めた。創設者である学長は「教職員一人ひとりがいつも学生を大切に」と口癖のように言っておられた。当時の学生たちは、授業だけでなく課外活動にも尽力した。体育会系・文科系など様々な部活が盛んで、教職員も必ず一団体以上の顧問、部長、コーチ等の役職が義務付けられていた。私は「SSW」というボランティアクラブの顧問を担当したが、ここでの経験を通して多くの学生や学外の関係施設等とも繋がりが生まれ、人間関係の幅を広げる事ができた。この大学で生活している学生の皆さんも、今、ここでしかできない経験を大切にしよう。そして自分の脳で考え、自分の目を見て、自分の耳で聞いて、自分の手で「何か大切な物を」掴んで欲しい。(文責:野間 光顕)